

9/20 実施 第3回 小川晶保育ゼミ テーマ『戸外あそび ごっこあそび』

R4.11.8 保育センター 発行

第1回、第2回の保育ゼミでは、食事、排泄、睡眠、あそび等の日々の様々な場面で、子どもと特定の大人との間に愛着が形成されていくことで、子どもは外界（新たな人、物、場所）に興味をもち関わっていくことを学びました。今回は、外界に出た時の子どものあそびの捉え方、環境の設定、関わり方について学ぶことのできた研修でした。

あそび：子どもが自ら選び、主体的に行うもの

子どもが主体的に遊ぶことがどうして必要なのか？

- 子どもの主体性を尊重した生活やあそびは、子どもが身近なものに興味をもち、自らで行動しようとする意欲を育て、同時に人との関わりの力や体の諸感覚を育てる
- 子どもは主体的に遊ぶことで探索活動が活発になり、感性が豊かになる



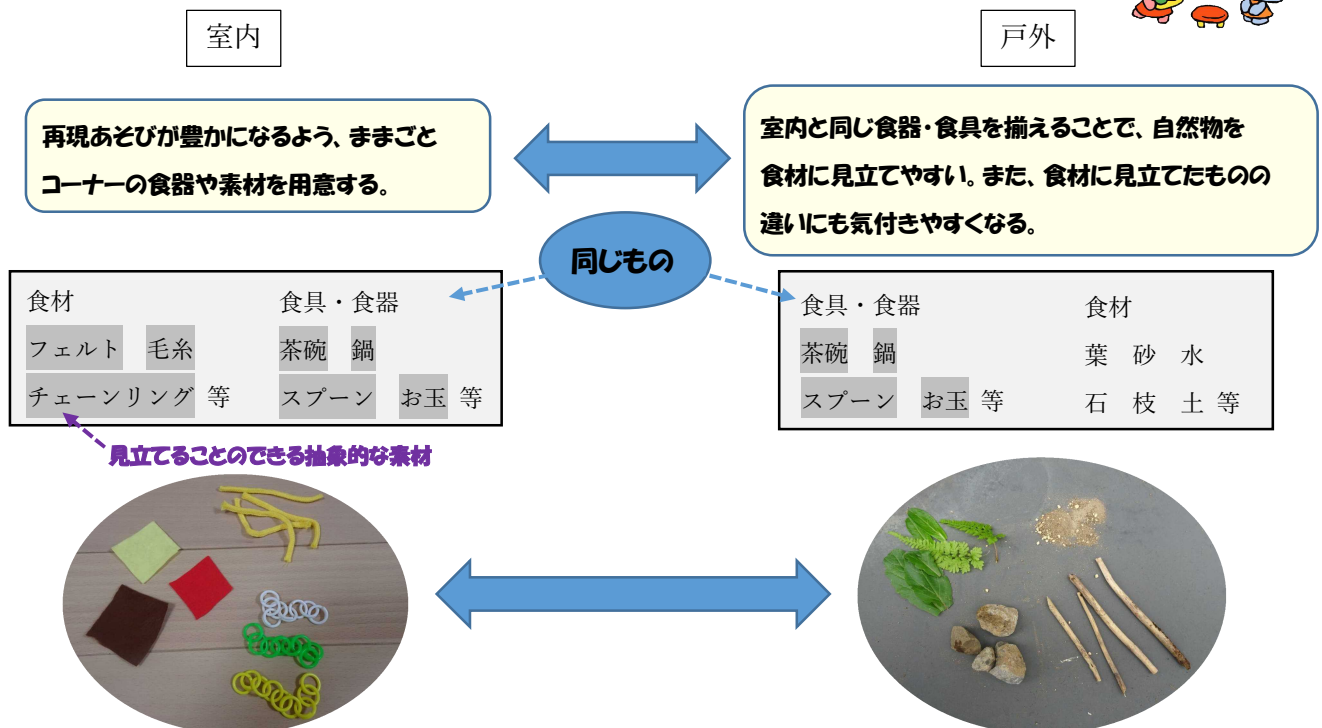
子どもが主体的に関われるような環境を保育者は設定し、そして関わっていく

物的環境の設定だけでなく、子どもの「気付き」と一緒に感動したり、試行錯誤を一緒にする等、人的環境として子どもにピッタリの「共感・表出・言語」の関わりをしていく

【室内と戸外のあそびの「連動」】

戸外と室内のあそびが繋がることで、試行錯誤する機会も増え、また、戸外・室内それぞれのあそびの幅も広がっていく

(例①：ままごとあそび) 他者の模倣や経験したことの再現等、遊び方のイメージがあるあそび



自然物に関わる時のポイント

自然物でじっくり遊んだり、
試行錯誤するためのコーナーを作ると、
あそびを保障しやすくなる

また

起こりうる危険は回避できるよう、発達を踏まえた環境の設定を意識する

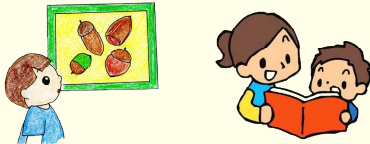
(例②：自然事象への気付き) 人・物・事象との出会いから探求していけるもの



室内

戸外

- ・気付きを楽しめる工夫
- ・図鑑や絵本を見る、調べる
- ・季節に応じた飾り
- ・戸外から持ってきたもので楽しむ工夫等



子どもの気付きに
保育者が共感することで、
探求心が深まっていく

- ・気付きを楽しめる場所に行く
- ・図鑑等で見たものを実際に見たり、触れたり、感じたりする
- ・園に持ち帰るための準備(袋、カメラ)等



1つの気付きから、他の自然物や関わりをもつ生き物、季節の移り変わりやあそびに使う素材・道具にも興味をもっていきます



グループワークでは、「連動」について
こんなアイデアも出ていました

室内

戸外

- 雨の絵本を見る
- 見たものを絵に描く
- 積み木で電車を作る
- 図鑑で調べる



- 雨の戸外に出る
- 散歩で見たり感じたりする
- 電車を見に行く
- 散歩先でセミの名前を考える



「子どもの経験や感じ取っていることを理解し、経験がどのように連動していくか、保育者が想像力をもっていけるといい」とのアドバイスがありましたね

受講者の感想

戸外あそびと室内あそびを連動するように環境設定を考えて関わっていくことで、室内あそびも様子が変わってくると思うので、実践してみたいと思った。

【下新倉リトルスター保育園 鹿野先生】

子どもがあそびを選択しているが、選択肢が狭くなっていないか、室内しか選ばない子は何故なのか、園庭の設定の見直しを取り組んでいきたい。

【にいくら保育園 高洲先生】

試行錯誤をしながら脳を使うことを関わりの中でどの程度できるのか、自分の保育を見直しながら試みたい。

【和光エンゼル保育室 五十嵐先生】

今までの保育でも連動は多少あったが、これからは連動する必要性や大切さを踏まえた上での関わりをしていくことができると思うので、まだ連動が難しい年齢相手の保育ではあるが、意識して行っていきたい。

【しらこ北リトルスター保育園 山下先生】

今回は11月25日(金)

13:30~15:00 中央公民館 会議室1

テーマ「排泄」です。

あそびも学びも繋げて、
毎日の保育を楽しくして
いきましょう♪

(研修担当)

保育センター 保育士 渡部 護